

愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査報告(EDOR)

第5回(2004年4-6月期)

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合先:愛媛県中小企業家同友会 tel.089-968-8802

愛媛大学松本朗研究室 tel.089-927-9237

文章:丹下晴喜(愛媛大学)、統計:佐藤智秋(愛媛大学)

～県内中小企業の景気は依然として足踏み～

【調査要領】

(1) 調査期間	2004年6月7日～6月26日
(2) 対象企業	愛媛県中小企業家同友会会員企業
(3) 調査方法	郵送による自計記入
(4) 回答企業数	調査対象企業数260社、回答企業数181社(回答率70%) (内訳 建設21社、製造38社、流通・商業64社、サービス58社)

【経済概況】

日銀の6月短観によれば、日本経済に対する景況感は、米中向け輸出などの海外需要とデジタル家電ブームに牽引され、大企業・製造業を中心に大幅に改善された。また、このような動きに連動して、「全規模・全産業」の業況も改善の傾向を示しており、日本経済の体温が上昇の兆しをみせている。

しかし、景気回復の成熟度を示す雇用判断は依然として鈍さが残り、中小企業の足元では過剰感の増加が見られる。小売りや建設業の景況感も悪化している。

さらに、地方経済にまで景気回復が広がっているという状況ではない。このことを裏付けるように、日銀松山支店6月短観では、「全国の景況感はかなり回復しているが、県内は足踏み状態にある」(中島毅支店長)とし、その構造的背景として、現在景気のけん引役が自動車・家電であるのに対し、県内では加工組立型産業のウエイトが低いことを挙げている。また公共工事の減少による建設、不動産の厳しさが、非製造業の業況判断悪化に反映している。

また、愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢(平成16年5月分)」も、「改善の兆し」「明るい動き」「緩やかな回復」という評価とともに、個人消費が力強さに欠け、公共投資が依然低水準であることを指摘している。

【調査結果概要】

調査対象企業の約半数を製造業が占める日銀短観と比較した場合、本調査の特徴は、サービス業、流通・商業の占める割合が高い点にある。また、今回、これまでの調査で必ずしも正確に捉えられていなかった業種分類をできるだけ正しく捉え直すため、調査票と分類方法の変更を行った。その結果、例えば、従来「建設業」と回答していた「設計業」者を「サービス業」に分類し直した。こうした統計上の変更があることを前提に評価を加えていきたい。

(売上高、採算、採算水準、業況)

まず、全業種について売上高 DI、採算(経常利益)DI、採算水準 DI を見ると、前期比、前年同期比のそれぞれで売上高 DI と採算 DI が横這いのなかで、採算水準 DI が比較的高い水準に安定している点が特徴である。これは、厳しい経営環境という外的条件を経営努力でカバーしようとする、調査対象企業群の現在の姿を反映しているといえよう。

次期見通しについては、「改善」を示す数値が見られている。傾向的に捉えてみると、やや上向きになっている。次期の展望の中に、改善の兆しを期待していることの表れではないだろうか。

また、業況判断 DI(1)(2)からは、各経営者が自ら属する業界の厳しさを実感しつつも、自社については、経営努力の結果生じる業績の好転を期待している姿が読みとれる。

業種別の売上高 DI、採算(経常利益)DI、採算水準 DI については前期比、前年同期比で見ると、建設業が上振れし、サービス業が下振れしていることが見て取れる。しかし、これはすでに述べたように、「設計業」の多くが「建設業」から「サービス業」に移されたためである。こうした点を考慮しつつ判断する必要がある。過去のデータを洗い直してみると、「設計業」の景況判断が相対的に悪化していることが見て取れる。今回の建設業の上振れとサービス業の下振れも、「設計業」の弱含みの景況判断が影響している。この点は、愛媛の景気あるいは経済環境を評価する上で一定の材料を提供する可能性がある。

製造業については、前期比、前年同期比で売上高 DI が低下し、採算についても前年同期比で低下が見られるが、前期比の採算 DI 好転し、採算水準でも黒字超という水準を維持している。流通・商業についてはほぼ横這いである。業種別の業況判断 DI(1)(2)を見ると、製造業の腰折れ感がある。今後、注目しなければならない点であろう。繰り返しになるが、これらも業種分類の修正を行ったことによる影響があることを加味する必要がある。この辺りの評価は今後の継続的なデータ蓄積による分析を待つことにしたい。

規模別の DI では、100 名以上の企業における DI 値の低下・変動傾向がみられる。また業況判断 DI(1)(2)については、100 名以上企業と 1-9 名企業の両極において値の低さが目立っている。

(次期見通しと経営課題)

次期見通しについては、全体として、売上高および採算に関して改善するとの見通しを持つ企業が多く、自社の業況判断についても楽観的な展望を抱いているようである。

しかし他方で、各企業は、おかれている業界の状況について改善期待をもちながらも、現状を厳しく認識しており、さらなる経営努力の必要を感じている。

すなわち、企業の経営環境の厳しさは、「同業者相互の価格競争の激化」「民間需要の停滞」「新規参入者の増加」「取引先の減少」として、すなわちデフレ的状況の継続として認識されており、また状況への対応としては、「新規受注(顧客)の確保」「付加価値の増大」「社員教育」などが重

視されている。

(特別調査)

今回は特別調査として、「第2回 経営指針書の作成状況」の調査を行った。調査対象企業のうち、経営指針を「毎年作成する」企業が 21.5%、「以前に作成した」企業が 31.5%であった。本調査結果で特徴的だったのは、これらの企業では、経営指針を作成していない企業に比べて、自社の業況判断や採算(経常利益)水準の DI 値が高いことである。

さらに計数管理の有無で見た場合も、各 DI 値の差は歴然としており、経営指針の作成や日常的な計数管理という地道な経営努力の効果が明確に示されているという点で、興味深いものであった。

第5回(2004年4-6月期) EDOR 調査結果

回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	21	11.6
製造業	38	21.0
流通・商業	64	35.4
サービス業	58	32.0
不明	0	0.0
合計	181	100.0

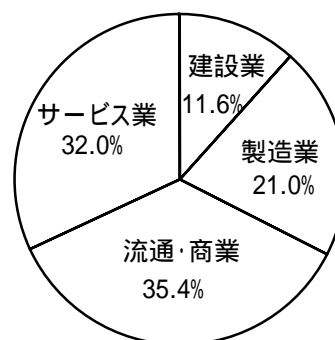
常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1～9人	85	47.0
10～19人	25	13.8
20～49人	39	21.5
50～99人	22	12.2
100人以上	10	5.5
不明	0	0.0
合計	181	100.0

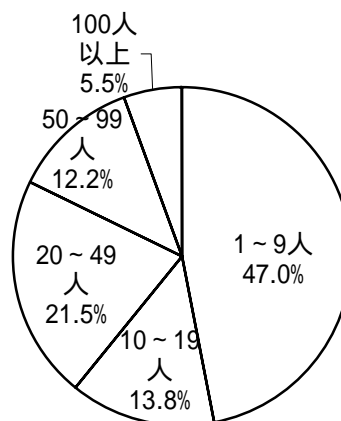
臨時・パート・アルバイト数を含む総従業員数

	社	%
1～9人	64	35.4
10～19人	34	18.8
20～49人	41	22.7
50～99人	22	12.2
100人以上	20	11.0
不明	0	0.0
合計	181	100.0

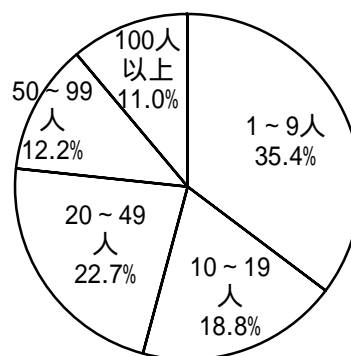
4業種別割合
(新業種分類)



正規従業員数



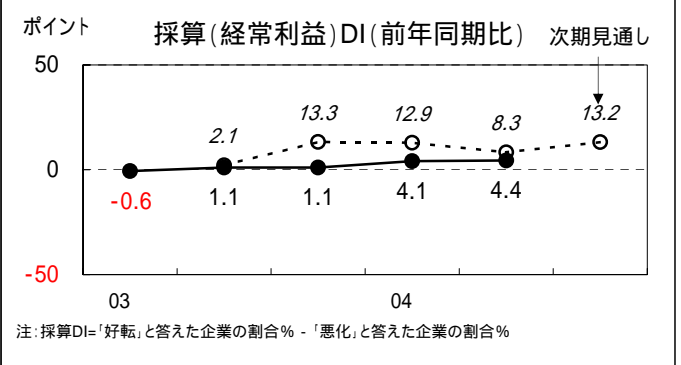
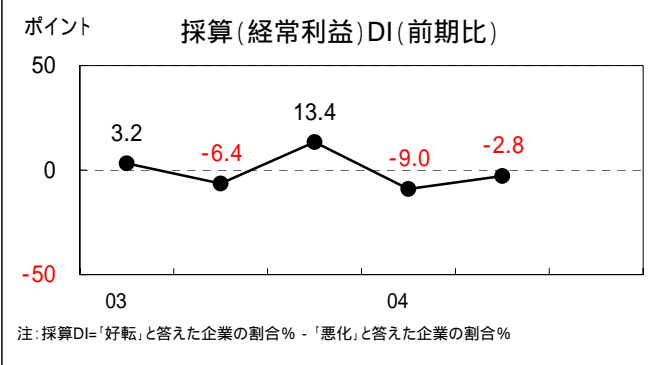
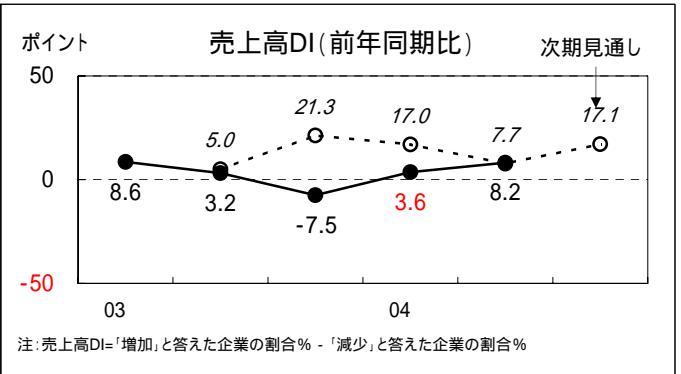
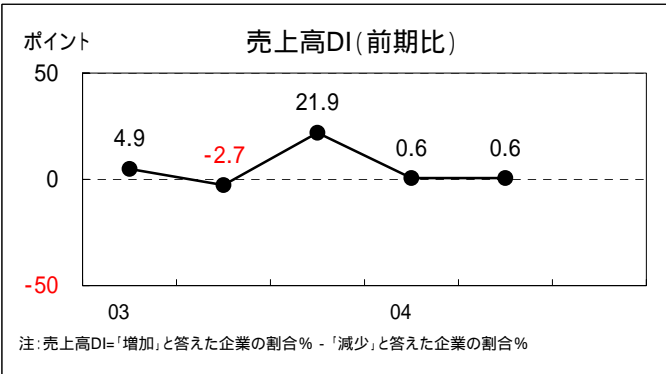
総従業員数



常勤役員を含む正規従業員数 × 業種

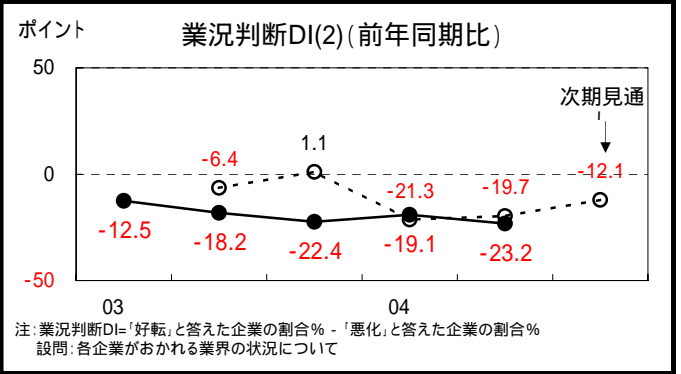
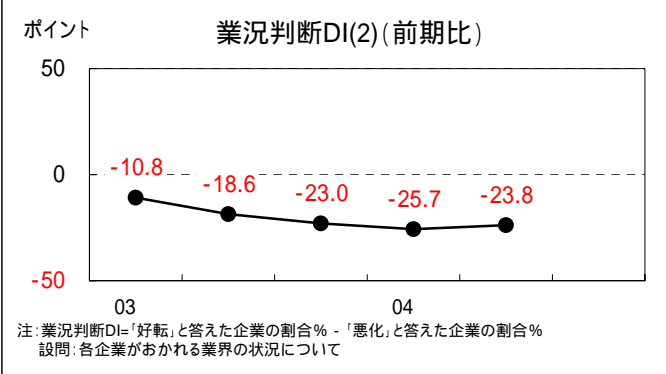
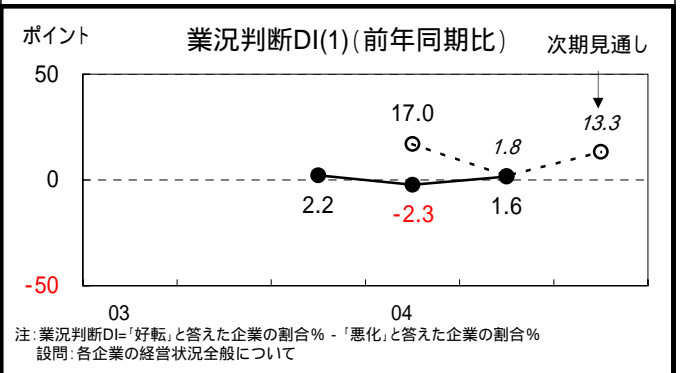
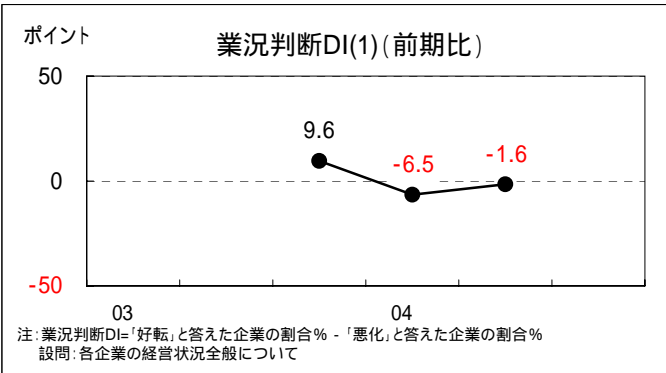
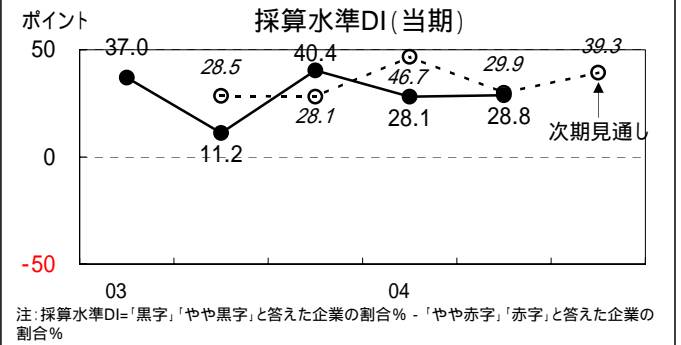
	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100人以上	合計
全体	85	25	39	22	10	181
建設業	11	5	5	0	0	21
製造業	15	4	9	0	4	38
流通・商業	30	6	15	8	5	64
サービス業	29	10	10	8	1	58

売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (全業種)

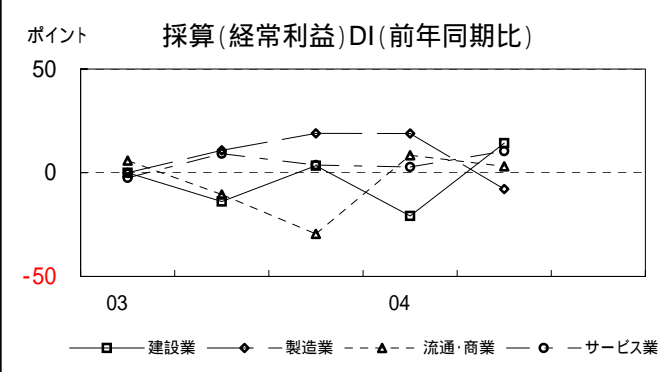
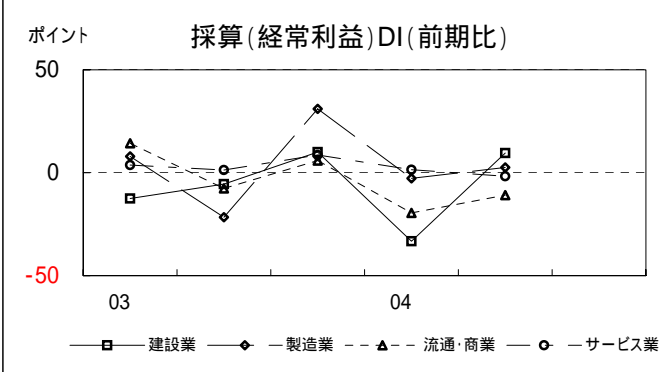
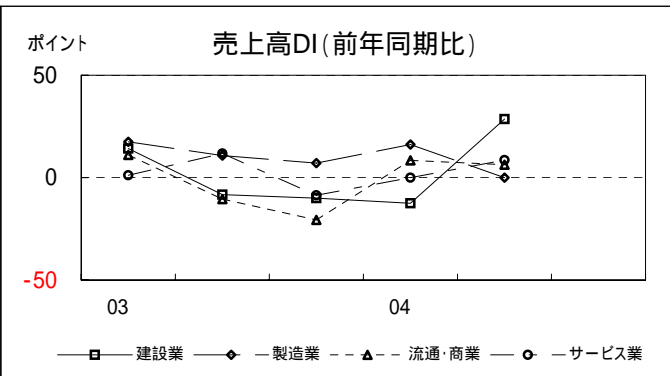
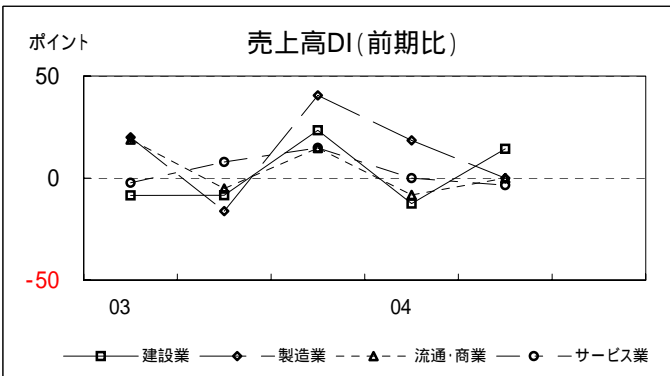


2004年4～6月期 DI概要

売上高DI
前期比は横ばい、前年同期比は改善、次期も改善の見通し。
採算(経常利益)DI
前期比は改善、前年同期比は横ばい、次期は改善の見通し。
採算水準DI
当期は横ばい、次期は改善の見通し。
業況判断DI(1)「各企業の経営状況全般について」
前期比、前年同期比、共に改善、次期も好転の見通し。
業況判断DI(2)「各企業がおかれる業界の状況について」
前期比はやや改善、前年同期比は悪化超幅が拡大。

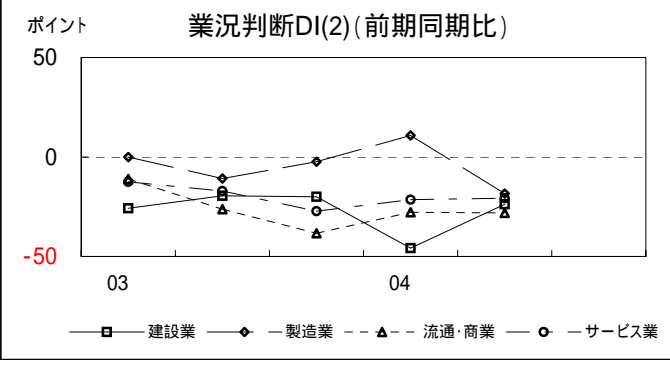
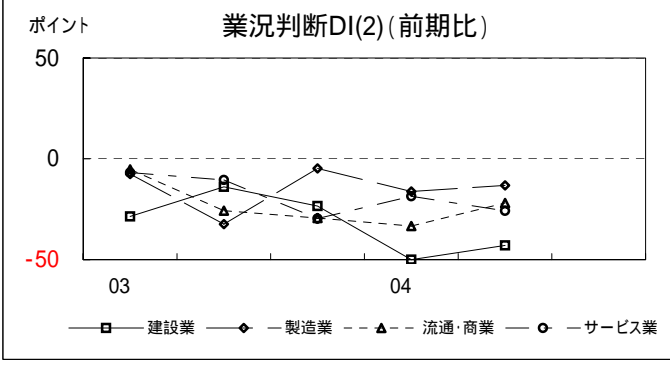
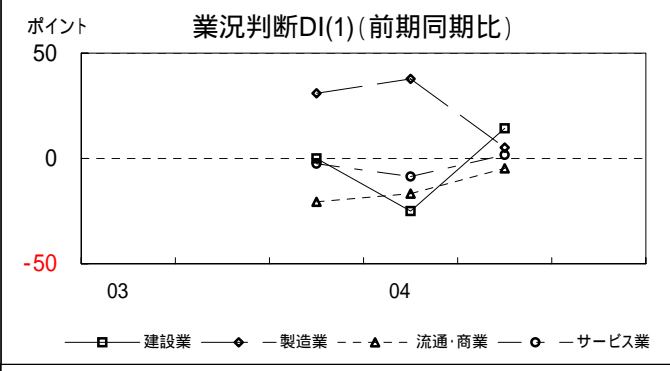
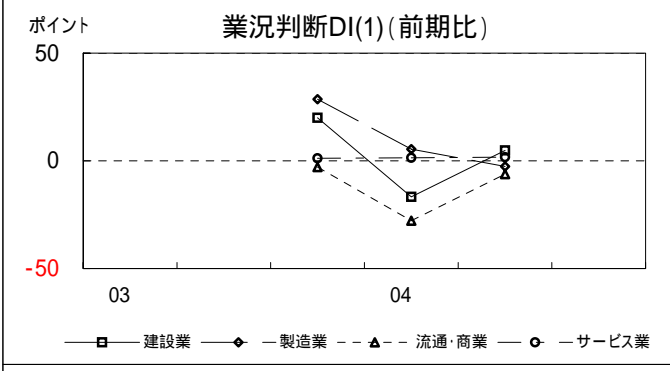
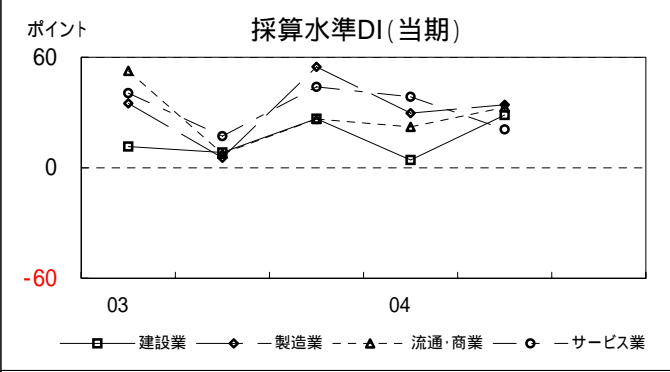


売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (業種別) (注: 今期から分類方法を変更)

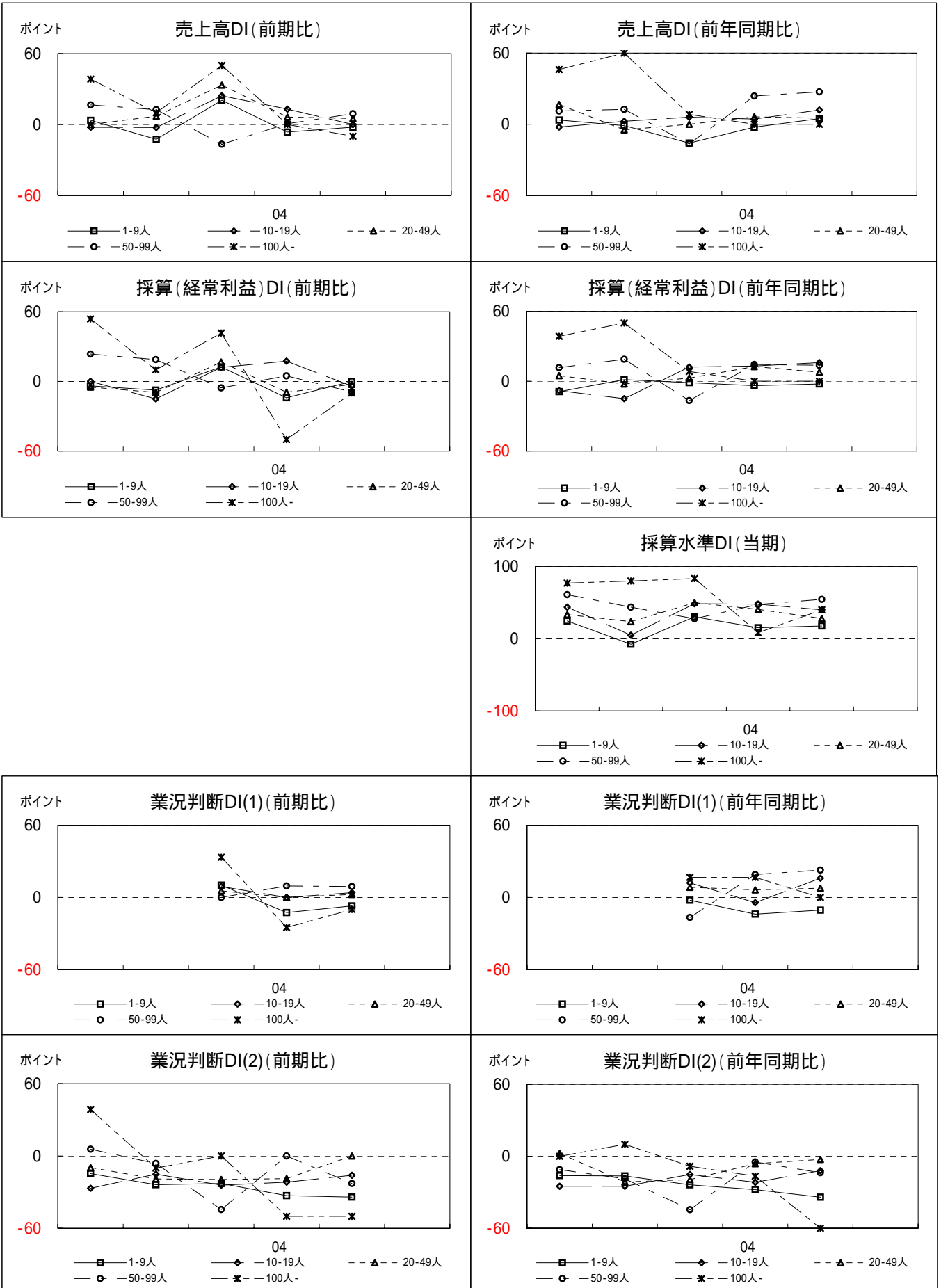


(注) 業種分類方法の変更について

第1回から第4回調査までは、回答者に4業種の中から自社の業種を選択してもらう方法を採用していた。
 第5回調査からは、業種分類の正確性を高めるため、回答者に「主な仕事の内容」を記入してもらい、その内容から集計する側で業種を割り当てる方法に変更した。
 この業種分類方法の変更のため、第4回までの調査結果と第5回の調査結果では「業種の連続性」が損なわれている。
 後日、新しい業種分類方法で集計・計算し直した結果を公表する。

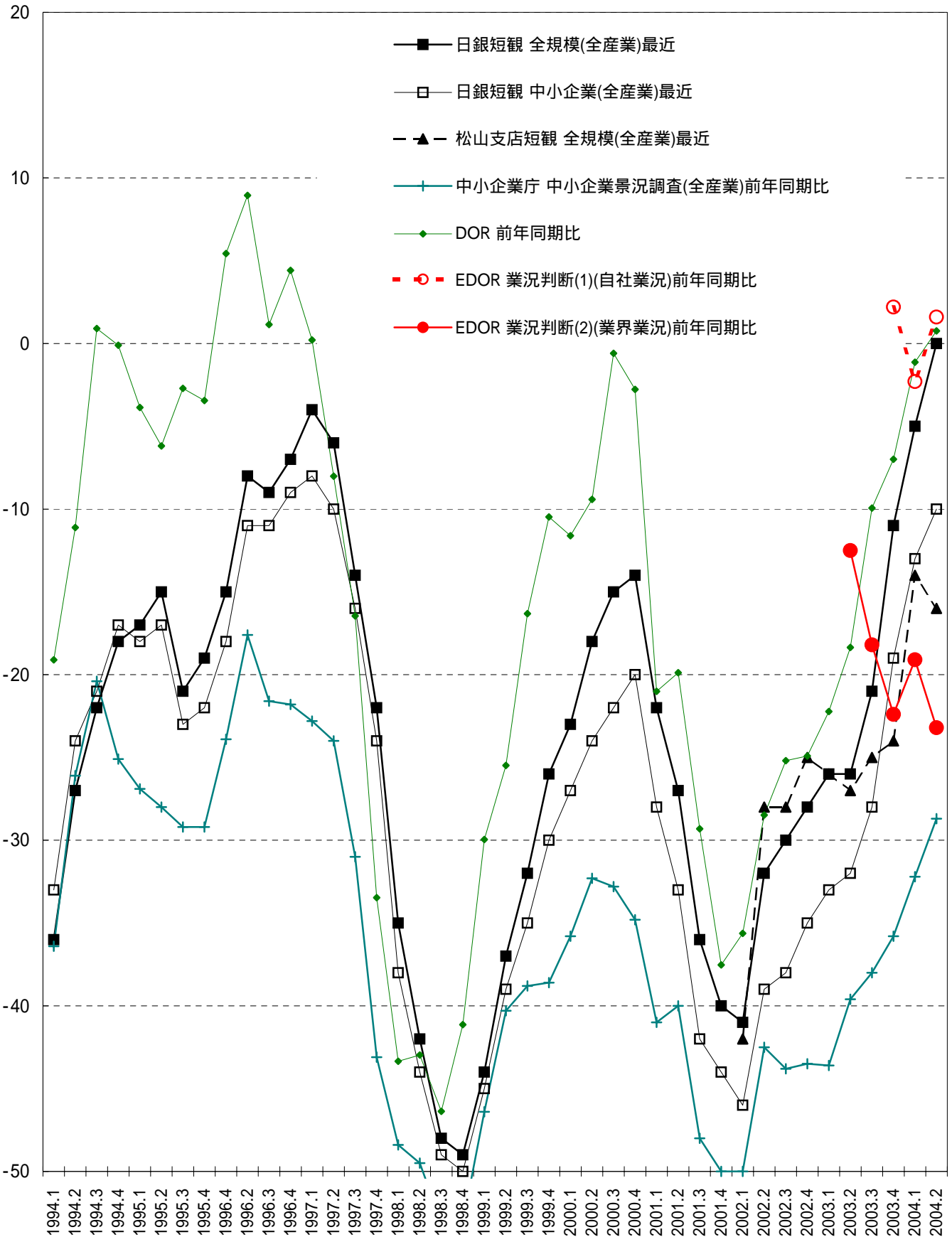


売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (規模別)



ポイント

主要景況調査の業況判断DI



(備考) 日銀短観(時系列, http://www.boj.or.jp/stat/stat_f.htm), 日銀松山支店短観(<http://www3.boj.or.jp/matsuyama/document/document.html>), 中小企業庁中小企業景況調査(<http://www.chusho.meti.go.jp/chousa/index.htm#keikyoo>), 財務省景気予測調査(<http://www.mof.go.jp/bos/1c003.htm>), その他より作成.

売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (業種別) 注 新方式による業種分類

売上高 (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
全業種	26	48.6	25.4	0.6	32	44.2	23.8	8.2	30.4	56.4	13.3	17.1
建設業	28.6	57.1	14.3	14.3	42.9	42.9	14.3	28.6	19	71.4	9.5	9.5
製造業	23.7	52.6	23.7	0.0	28.9	42.1	28.9	0.0	23.7	60.5	15.8	7.9
流通・商業	29.7	40.6	29.7	0.0	31.3	43.8	25	6.3	29.7	59.4	10.9	18.8
サービス業	22.4	51.7	25.9	-3.5	31	46.6	22.4	8.6	39.7	44.8	15.5	24.2

採算(経常利益) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
全業種	20.4	56.4	23.2	-2.8	29.3	45.9	24.9	4.4	26.5	60.2	13.3	13.2
建設業	28.6	52.4	19.0	9.6	38.1	38.1	23.8	14.3	19.0	66.7	14.3	4.7
製造業	15.8	71.1	13.2	2.6	23.7	44.7	31.6	-7.9	23.7	60.5	15.8	7.9
流通・商業	18.8	51.6	29.7	-10.9	25.0	53.1	21.9	3.1	23.4	62.5	14.1	9.3
サービス業	22.4	53.4	24.1	-1.7	34.5	41.4	24.1	10.4	34.5	55.2	10.3	24.2

採算(経常利益) の水準(%)	2004年4月～6月 (今期)					2004年7月～9月の見通し (次期見通し)						
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
全業種	15.5	34.8	28.2	18.2	3.3	28.8	14.4	37.6	35.4	10.5	2.2	39.3
建設業	14.3	38.1	23.8	14.3	9.5	28.6	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	28.6
製造業	18.4	31.6	34.2	15.8	0.0	34.2	18.4	34.2	34.2	10.5	2.6	39.5
流通・商業	17.2	35.9	26.6	15.6	4.7	32.8	14.1	42.2	29.7	10.9	3.1	42.3
サービス業	12.1	34.5	27.6	24.1	1.7	20.8	12.1	37.9	39.7	8.6	1.7	39.7

業況判断(1)(%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	19.9	58.6	21.5	-1.6	28.7	44.2	27.1	1.6	27.1	59.1	13.8	13.3
建設業	23.8	57.1	19.0	4.8	38.1	38.1	23.8	14.3	14.3	66.7	19.0	-4.7
製造業	13.2	71.1	15.8	-2.6	28.9	47.4	23.7	5.2	26.3	60.5	13.2	13.1
流通・商業	18.8	56.3	25.0	-6.2	25.0	45.3	29.7	-4.7	23.4	64.1	12.5	10.9
サービス業	24.1	53.4	22.4	1.7	29.3	43.1	27.6	1.7	36.2	50.0	13.8	22.4

業況判断(2)(%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	10.5	55.2	34.3	-23.8	13.8	49.2	37.0	-23.2	13.3	61.3	25.4	-12.1
建設業	9.5	38.1	52.4	-42.9	14.3	47.6	38.1	-23.8	4.8	61.9	33.3	-28.5
製造業	10.5	65.8	23.7	-13.2	13.2	55.3	31.6	-18.4	10.5	71.1	18.4	-7.9
流通・商業	9.4	59.4	31.3	-21.9	14.1	43.8	42.2	-28.1	12.5	62.5	25.0	-12.5
サービス業	12.1	50.0	37.9	-25.8	13.8	51.7	34.5	-20.7	19.0	53.4	27.6	-8.6

* 「売上高」、「採算(経常利益)」、「業況判断」は変化方向についての設問、「採算(経常利益)の水準」は水準についての設問。

* 「2004年7月～9月の見通し」は、昨年2003年7月～9月と比べた見通し。

* 「売上高」のDI値の求め方 DI値 = 「増加」と答えた企業の割合% - 「減少」と答えた企業の割合%

* 「採算(経常利益)の水準」のDI値の求め方 DI値 = 「黒字」「やや黒字」と答えた企業の割合% - 「やや赤字」「赤字」と答えた企業の割合%

* 「採算(経常利益)」と「業況判断」のDI値の求め方 DI値 = 「好転」と答えた企業の割合% - 「悪化」と答えた企業の割合%

* 「業況判断(1)」は、各企業の経営状況全般についての設問。

* 「業況判断(2)」は、各企業がおかれる業界の状況についての設問。

(注) 業種分類方法の変更について

第1回から第4回調査までは、回答者に4業種の中から自社の業種を選択してもらう方法を採用していたが、業種分類の正確性を高めるため、第5回調査からは、回答者に「主な仕事の内容」を記入してもらい、その記述内容から集計する側で業種を割り当てる方法に変更した。

この業種分類方法の変更のため、第4回までの調査結果と第5回の調査結果では「業種の連続性」が損なわれている。後日、新しい業種分類方法で集計・計算し直した結果を公表する予定である。

参考のため、次ページに、第4回調査までの業種で集計した場合の今回の業種別DIを掲載する。

参考 (第4回調査までの業種分類による業種別DI)
売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2)(業種別)

売上高 (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
全業種	25.3	46.2	28.5	-3.2	31.6	43.7	24.7	6.9	27.8	58.9	13.3	14.5
建設業	21.7	60.9	17.4	4.3	21.7	47.8	30.4	-8.7	17.4	73.9	8.7	8.7
製造業	24.3	45.9	29.7	-5.4	35.1	35.1	29.7	5.4	21.6	62.2	16.2	5.4
流通・商業	26.5	41.2	32.4	-5.9	29.4	44.1	26.5	2.9	29.4	58.8	11.8	17.6
サービス業	26.6	43.8	29.7	-3.1	34.4	46.9	18.8	15.6	34.4	51.6	14.1	20.3

採算(経常利益) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
全業種	20.3	54.4	25.3	-5.0	28.5	44.9	26.6	1.9	24.7	61.4	13.9	10.8
建設業	17.4	56.5	26.1	-8.7	26.1	30.4	43.5	-17.4	17.4	69.6	13.0	4.4
製造業	16.2	67.6	16.2	0.0	27.0	43.2	29.7	-2.7	18.9	62.2	18.9	0.0
流通・商業	17.6	50.0	32.4	-14.8	23.5	55.9	20.6	2.9	23.5	64.7	11.8	11.7
サービス業	25.0	48.4	26.6	-1.6	32.8	45.3	21.9	10.9	31.3	56.3	12.5	18.8

採算(経常利益) の水準 (%)	2004年4月～6月 (今期)						2004年7月～9月の見通し (次期見通し)					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
全業種	15.8	35.4	26.6	18.4	3.8	29.0	14.6	37.3	34.2	11.4	2.5	38.0
建設業	8.7	30.4	30.4	26.1	4.3	8.7	8.7	26.1	52.2	13.0	0.0	21.8
製造業	21.6	29.7	27.0	21.6	0.0	29.7	18.9	32.4	32.4	13.5	2.7	35.1
流通・商業	8.8	47.1	23.5	11.8	8.8	35.3	8.8	41.2	32.4	11.8	5.9	32.3
サービス業	18.8	34.4	26.6	17.2	3.1	32.9	17.2	42.2	29.7	9.4	1.6	48.4

業況判断(1) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	18.4	58.2	23.4	-5.0	27.8	43.7	28.5	-0.7	25.3	60.1	14.6	10.7
建設業	21.7	56.5	21.7	0.0	21.7	34.8	43.5	-21.8	17.4	65.2	17.4	0.0
製造業	13.5	67.6	18.9	-5.4	35.1	40.5	24.3	10.8	27.0	56.8	16.2	10.8
流通・商業	11.8	58.8	29.4	-17.6	23.5	47.1	29.4	-5.9	17.6	70.6	11.8	5.8
サービス業	23.4	53.1	23.4	0.0	28.1	46.9	25.0	3.1	31.3	54.7	14.1	17.2

業況判断(2) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	11.4	54.4	34.2	-22.8	14.6	48.7	36.7	-22.1	13.9	62.0	24.1	-10.2
建設業	13.0	30.4	56.5	-43.5	4.3	47.8	47.8	-43.5	8.7	56.5	34.8	-26.1
製造業	13.5	64.9	21.6	-8.1	16.2	51.4	32.4	-16.2	10.8	67.6	21.6	-10.8
流通・商業	5.9	58.8	35.3	-29.4	17.6	47.1	35.3	-17.7	8.8	76.5	14.7	-5.9
サービス業	12.5	54.7	32.8	-20.3	15.6	48.4	35.9	-20.3	20.3	53.1	26.6	-6.3

* 「売上高」、「採算(経常利益)」、「業況判断」は変化方向についての設問、「採算(経常利益)の水準」は水準についての設問。

* 「2004年7月～9月の見通し」は、昨年2003年7月～9月と比べた見通し。

* 「売上高」のDI値の求め方 DI値 = 「増加」と答えた企業の割合% - 「減少」と答えた企業の割合%

* 「採算(経常利益)の水準」のDI値の求め方 DI値 = 「黒字」「やや黒字」と答えた企業の割合% - 「やや赤字」「赤字」と答えた企業の割合%

* 「採算(経常利益)」と「業況判断」のDI値の求め方 DI値 = 「好転」と答えた企業の割合% - 「悪化」と答えた企業の割合%

* 「業況判断(1)」は、各企業の経営状況全般についての設問。

* 「業況判断(2)」は、各企業がおかれる業界の状況についての設問。

売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (規模別)

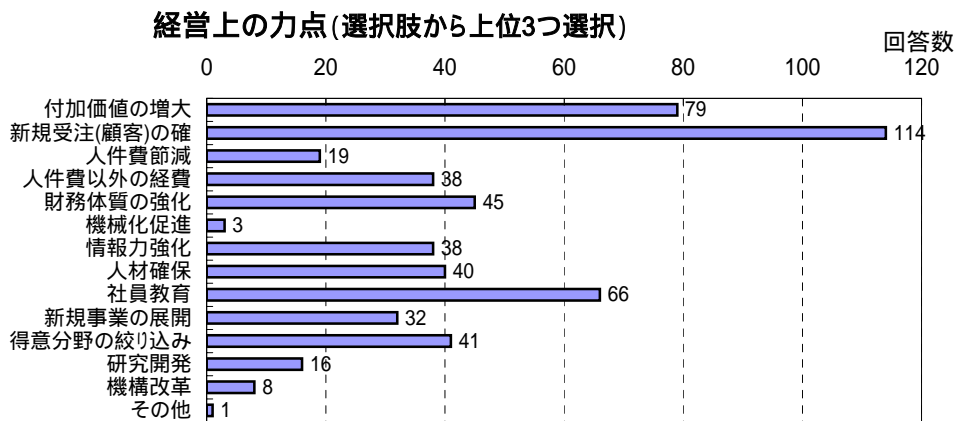
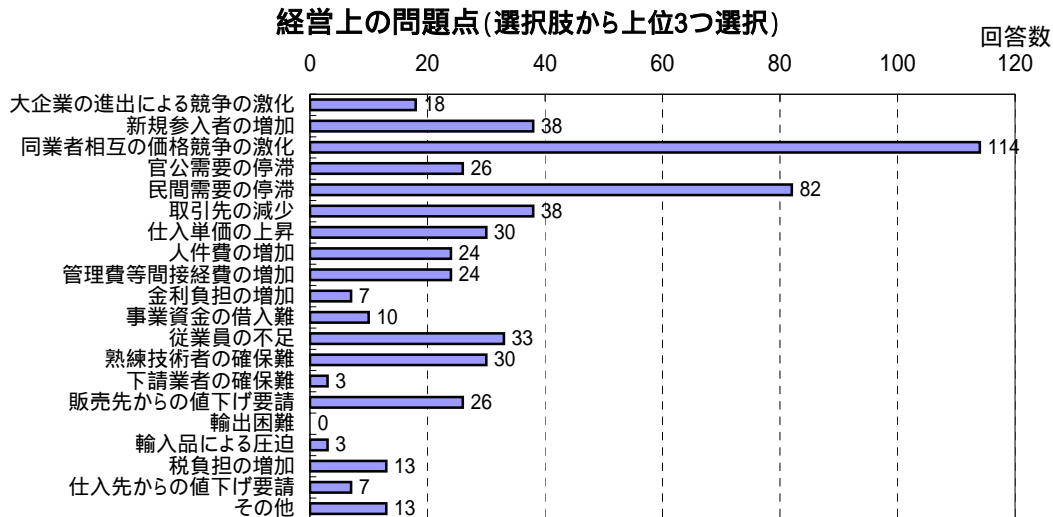
売上高 (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
全体	26.0	48.6	25.4	0.6	32.0	44.2	23.8	8.2	30.4	56.4	13.3	17.1
1～9人	21.2	55.3	23.5	-2.3	25.9	52.9	21.2	4.7	29.4	56.5	14.1	15.3
10～19人	32.0	36.0	32.0	0.0	40.0	32.0	28.0	12.0	32.0	52.0	16.0	16.0
20～49人	28.2	48.7	23.1	5.1	33.3	38.5	28.2	5.1	25.6	59.0	15.4	10.2
50～99人	36.4	36.4	27.3	9.1	45.5	36.4	18.2	27.3	40.9	54.5	4.5	36.4
100人～	20.0	50.0	30.0	-10.0	30.0	40.0	30.0	0.0	30.0	60.0	10.0	20.0

採算(経常利益) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
全体	20.4	56.4	23.2	-2.8	29.3	45.9	24.9	4.4	26.5	60.2	13.3	13.2
1～9人	18.8	62.4	18.8	0.0	24.7	48.2	27.1	-2.4	25.9	57.6	16.5	9.4
10～19人	24.0	48.0	28.0	-4.0	36.0	44.0	20.0	16.0	24.0	64.0	12.0	12.0
20～49人	20.5	56.4	23.1	-2.6	33.3	41.0	25.6	7.7	20.5	64.1	15.4	5.1
50～99人	22.7	45.5	31.8	-9.1	36.4	40.9	22.7	13.7	40.9	59.1	0.0	40.9
100人～	20.0	50.0	30.0	-10.0	20.0	60.0	20.0	0.0	30.0	60.0	10.0	20.0

採算(経常利益) の水準 (%)	2004年4月～6月 (今期)						2004年7月～9月の見通し (次期見通し)					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
全体	15.5	34.8	28.2	18.2	3.3	28.8	14.4	37.6	35.4	10.5	2.2	39.3
1～9人	10.6	30.6	35.3	17.6	5.9	17.7	9.4	32.9	42.4	11.8	3.5	27.0
10～19人	16.0	48.0	12.0	24.0	0.0	40.0	8.0	36.0	44.0	12.0	0.0	32.0
20～49人	17.9	28.2	35.9	15.4	2.6	28.1	25.6	33.3	30.8	7.7	2.6	48.6
50～99人	27.3	45.5	9.1	18.2	0.0	54.6	22.7	59.1	13.6	4.5	0.0	77.3
100人～	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0	10.0	50.0	20.0	20.0	0.0	40.0

業況判断(1) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全体	19.9	58.6	21.5	-1.6	28.7	44.2	27.1	1.6	27.1	59.1	13.8	13.3
1～9人	16.5	60.0	23.5	-7.0	22.4	44.7	32.9	-10.5	23.5	54.1	22.4	1.1
10～19人	24.0	56.0	20.0	4.0	40.0	36.0	24.0	16.0	24.0	72.0	4.0	20.0
20～49人	17.9	66.7	15.4	2.5	25.6	56.4	17.9	7.7	20.5	69.2	10.3	10.2
50～99人	31.8	45.5	22.7	9.1	40.9	40.9	18.2	22.7	45.5	54.5	0.0	45.5
100人～	20.0	50.0	30.0	-10.0	40.0	20.0	40.0	0.0	50.0	40.0	10.0	40.0

業況判断(2) (%)	2004年1月～3月と比べて (前期比)				2003年4月～6月と比べて (前年同期比)				2004年7月～9月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全体	10.5	55.2	34.3	-23.8	13.8	49.2	37.0	-23.2	13.3	61.3	25.4	-12.1
1～9人	7.1	51.8	41.2	-34.1	9.4	47.1	43.5	-34.1	11.8	55.3	32.9	-21.1
10～19人	16.0	52.0	32.0	-16.0	20.0	48.0	32.0	-12.0	12.0	60.0	28.0	-16.0
20～49人	15.4	69.2	15.4	0.0	20.5	56.4	23.1	-2.6	12.8	71.8	15.4	-2.6
50～99人	13.6	50.0	36.4	-22.8	13.6	59.1	27.3	-13.7	18.2	68.2	13.6	4.6
100人～	0.0	50.0	50.0	-50.0	10.0	20.0	70.0	-60.0	20.0	60.0	20.0	0.0



その他の経営上の努力(自由記述回答)

新規事業の研究及び調査, 今後時期を見て参入します。(建設業)

財務上は, 今後の金利動向を予測した上で, 長期借入金の圧縮が重要となると見えています。また ROAの改善から見ても, 総生産の圧縮は重要であり, 売掛・在庫の圧縮と, 「所有する」から「借りの」への転換が必要だと判断しています。

企業内では, 継続して, ソフト(マンパワーを中心とした創造活動)と, ハード(商品や戦略・しくみ)といった両輪の改革に注力していきます。これら活動の土壌として, 企業の使命共有と, 人の関わりは, レベルアップを目指します。(製造業)

消費税の総合表示が四月より実施され小売業は下落しておりその影響が出ているように思われます。(製造業)

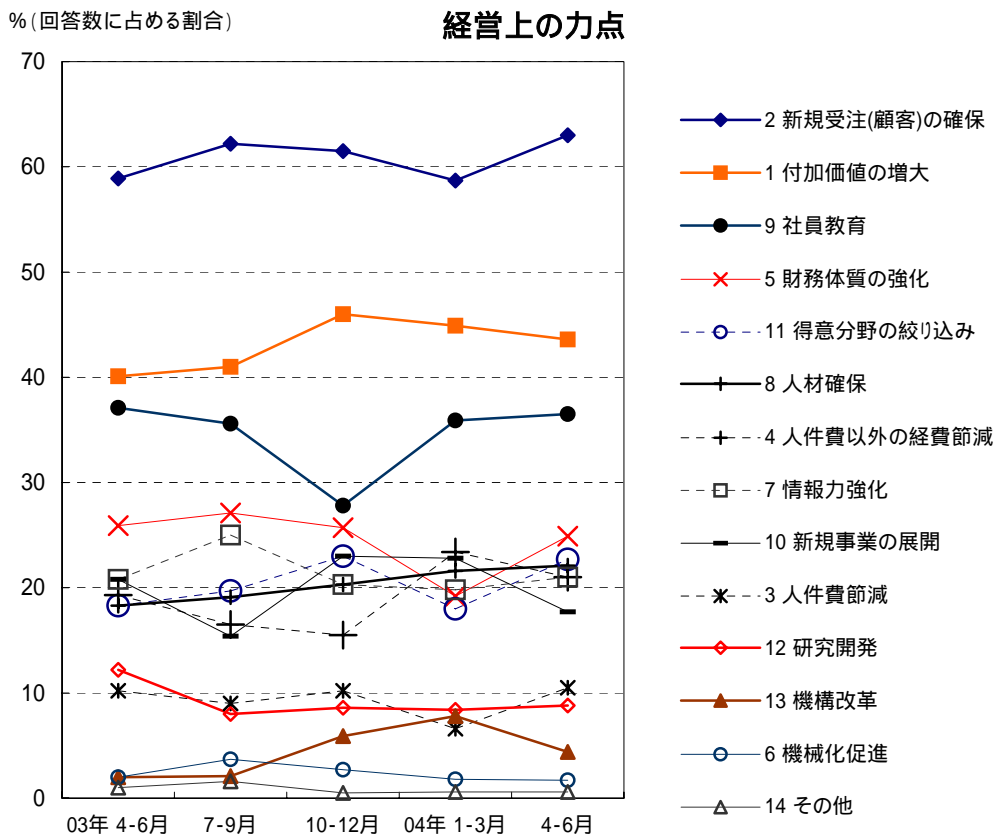
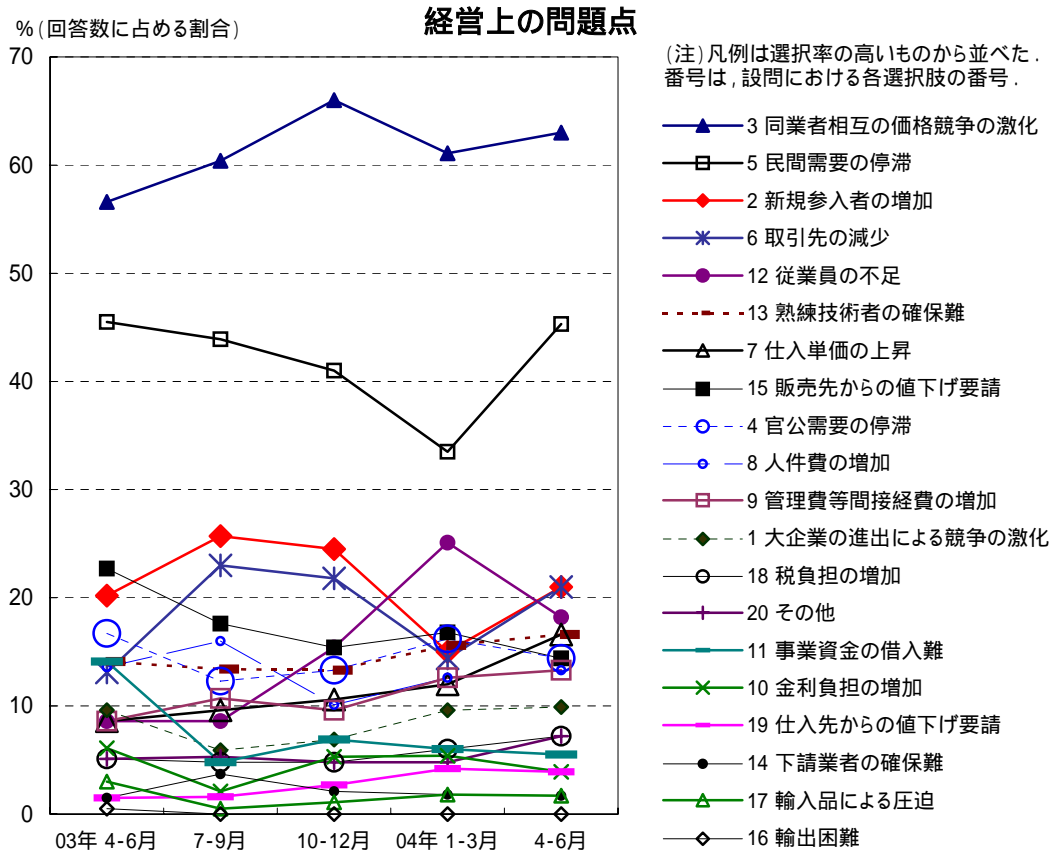
仕入単価の高騰で, 利益が圧迫されたため, 今後, 益々財務体質を強化して, 経費をより節減して, 利益を確保していく。(流通・商業)

・仕入商品に若干手を加え, 加工することにより, 販売価格を高くし, かつ, 販売数量を増やした
・商品を自社加工することにより, 販売単価を下げ(100円), かつ, 粗利率をアップさせた。100円均一コーナーにより, 買い安さを訴求し, 販売数量アップを目指す(流通・商業)

金額の下限がなくなっている。結局は, 客の提示する金額で受注する事になる。それが, 経営努力といってしまうと, 本当に茶番である。【利潤を追求するという術】を会得したいものである。(サービス業)

採算性, 効率の悪い仕事まで無理をして取る事をやめた。従って件数としては減少するが, 利益率等の高い仕事に集中して, 取っていきたい。(サービス業)

経営上の問題点・力点の推移(2003年4-6月～2004年4-6月)

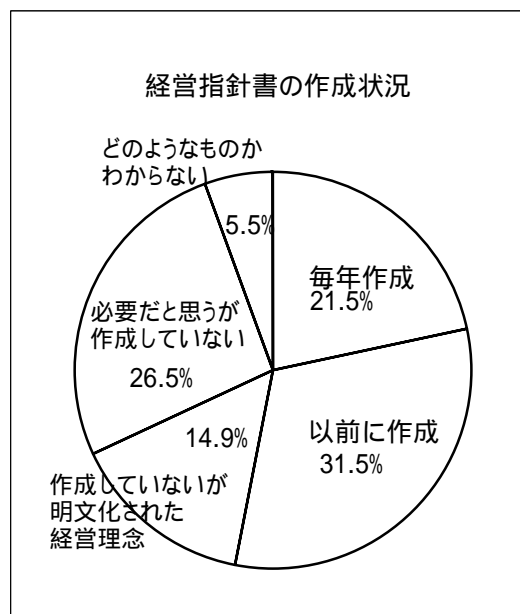


特別調査(第2回 経営指針書の作成状況)

経営指針書の作成状況

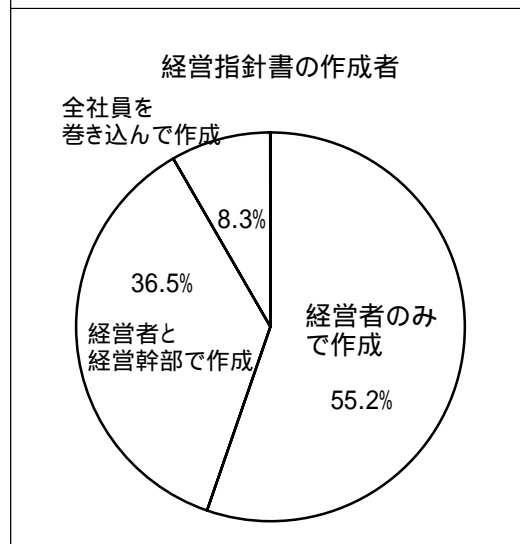
	件数(SA)
1 毎年作成する経営指針書がある。	39
2 毎年更新してはいないが、以前に作成した経営指針書がある。	57
3 経営指針書としては作成していないが、明文化された経営理念を掲げている。	27
4 経営指針書は必要だと思うが、作成していない。	48
5 経営指針書とはどのようなものかわからない。	10
6 不明(無回答)	0
計	181

* SAはsimple answer(単数回答)の略で選択肢から1つのみ選択。



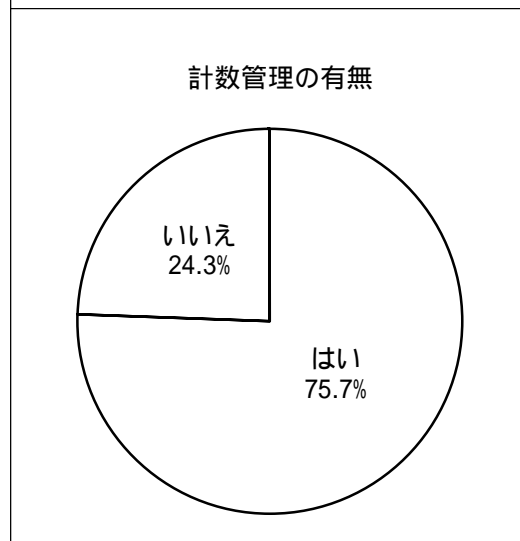
経営指針書の作成者

	件数(SA)
1 経営者のみで作成している。	53
2 経営者と経営幹部で作成している。	35
3 全社員を巻き込んで作成している。	8
4 不明(無回答)	0
計	103



計数管理の有無

	件数(SA)
1 はい	137
2 いいえ	44
3 不明(無回答)	0
計	181



経営指針書作成状況別DI

売上高(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
毎年作成する経営指針書あり	41.0	35.9	23.1	17.9	46.2	28.2	25.6	20.6	46.2	41.0	12.8	33.4
毎年更新してはいるが以前作成した経営指針書あり	31.6	43.9	24.6	7.0	36.8	42.1	21.1	15.7	29.8	57.9	12.3	17.5
明文化された経営理念あり	22.2	55.6	22.2	0.0	33.3	55.6	11.1	22.2	44.4	48.1	7.4	37.0
作成していない	12.5	58.3	29.2	-16.7	18.8	50.0	31.3	-12.5	14.6	66.7	18.8	-4.2
どのようなものかわからない	10.0	60.0	30.0	-20.0	10.0	60.0	30.0	-20.0	10.0	80.0	10.0	0.0

採算(経常利益)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
毎年作成する経営指針書あり	33.3	41.0	25.6	7.7	41.0	38.5	20.5	20.5	38.5	48.7	12.8	25.7
毎年更新してはいるが以前作成した経営指針書あり	21.1	61.4	17.5	3.6	29.8	52.6	17.5	12.3	22.8	66.7	10.5	12.3
明文化された経営理念あり	14.8	66.7	18.5	-3.7	33.3	55.6	11.1	22.2	37.0	55.6	7.4	29.6
作成していない	14.6	56.3	29.2	-14.6	20.8	39.6	39.6	-18.8	18.8	62.5	18.8	0.0
どのようなものかわからない	10.0	60.0	30.0	-20.0	10.0	40.0	50.0	-40.0	10.0	70.0	20.0	-10.0

採算(経常利益)の水準(%)	2004年4月～6月						2004年7月～9月の見通し					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
毎年作成する経営指針書あり	20.5	33.3	25.6	20.5	0.0	33.3	30.8	28.2	25.6	10.3	5.1	43.6
毎年更新してはいるが以前作成した経営指針書あり	19.3	42.1	24.6	12.3	1.8	47.3	12.3	42.1	38.6	7.0	0.0	47.4
明文化された経営理念あり	11.1	48.1	29.6	7.4	3.7	48.1	7.4	66.7	18.5	7.4	0.0	66.7
作成していない	10.4	18.8	33.3	29.2	8.3	-8.3	10.4	22.9	45.8	16.7	4.2	12.4
どのようなものかわからない	10.0	40.0	30.0	20.0	0.0	30.0	0.0	40.0	50.0	10.0	0.0	30.0

業況判断(1)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
毎年作成する経営指針書あり	35.9	48.7	15.4	20.5	48.7	30.8	20.5	28.2	46.2	46.2	7.7	38.5
毎年更新してはいるが以前作成した経営指針書あり	22.8	57.9	19.3	3.5	31.6	43.9	24.6	7.0	21.1	63.2	15.8	5.3
明文化された経営理念あり	18.5	59.3	22.2	-3.7	37.0	48.1	14.8	22.2	40.7	55.6	3.7	37.0
作成していない	8.3	66.7	25.0	-16.7	10.4	52.1	37.5	-27.1	16.7	62.5	20.8	-4.1
どのようなものかわからない	0.0	60.0	40.0	-40.0	0.0	50.0	50.0	-50.0	0.0	80.0	20.0	-20.0

業況判断(2)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
毎年作成する経営指針書あり	12.8	59.0	28.2	-15.4	20.5	43.6	35.9	-15.4	20.5	59.0	20.5	0.0
毎年更新してはいるが以前作成した経営指針書あり	10.5	54.4	35.1	-24.6	14.0	49.1	36.8	-22.8	8.8	64.9	26.3	-17.5
明文化された経営理念あり	7.4	55.6	37.0	-29.6	14.8	59.3	25.9	-11.1	14.8	63.0	22.2	-7.4
作成していない	12.5	56.3	31.3	-18.8	10.4	50.0	39.6	-29.2	14.6	56.3	29.2	-14.6
どのようなものかわからない	0.0	40.0	60.0	-60.0	0.0	40.0	60.0	-60.0	0.0	70.0	30.0	-30.0

* 設問[1]「売上高」、設問[2]「採算(経常利益)」、設問[3]「採算(経常利益)の水準」、設問[4]「業況判断」と、設問[7]「経営指針書の作成状況」をクロス集計しDI値を求めた。

計数管理有無別DI

売上高(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
計数管理している	29.2	48.9	21.9	7.3	34.3	46.0	19.7	14.6	35.8	53.3	10.9	24.9
計数管理していない	15.9	47.7	36.4	-20.5	25.0	38.6	36.4	-11.4	13.6	65.9	20.5	-6.9

採算(経常利益)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
計数管理している	23.4	56.2	20.4	3.0	32.8	46.7	20.4	12.4	30.7	59.1	10.2	20.5
計数管理していない	11.4	56.8	31.8	-20.4	18.2	43.2	38.6	-20.4	13.6	63.6	22.7	-9.1

採算(経常利益)の水準(%)	2004年4月～6月						2004年7月～9月の見通し					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
計数管理している	18.2	38.0	29.2	13.9	0.7	41.6	18.2	43.8	29.9	6.6	1.5	53.9
計数管理していない	6.8	25.0	25.0	31.8	11.4	-11.4	2.3	18.2	52.3	22.7	4.5	-6.7

業況判断(1)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
計数管理している	21.9	57.7	20.4	1.5	32.1	46.0	21.9	10.2	29.9	59.9	10.2	19.7
計数管理していない	13.6	61.4	25.0	-11.4	18.2	38.6	43.2	-25.0	18.2	56.8	25.0	-6.8

業況判断(2)(%)	2004年1月～3月と比べて				2003年4月～6月と比べて				2004年7月～9月の見通し			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
計数管理している	9.5	57.7	32.8	-23.3	13.9	52.6	33.6	-19.7	12.4	65.0	22.6	-10.2
計数管理していない	13.6	47.7	38.6	-25.0	13.6	38.6	47.7	-34.1	15.9	50.0	34.1	-18.2

* 設問[1]「売上高」,「採算(経常利益)」,設問[2]「採算(経常利益)の水準」,設問[3]「業況判断」と,設問[9]「計数管理の有無」をクロス集計しDI値を求めた。

第5回 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査 E D O R (2004年4-6月期)

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

会社名 _____
 主な仕事の内容 _____

従業員数 常勤役員を含む正規従業員数()人
 派遣・契約社員を含む臨時・パート・アルバイト数()人

[1] 貴社の4～6月の売上高と採算(経常利益)(該当する番号に をして下さい。)

	2004年1～3月と比べて	2003年4～6月と比べて	2004年7～9月の見通し
売上高	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.増加 2.横ばい 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.横ばい 3.悪化	1.好転 2.横ばい 3.悪化	1.好転 2.横ばい 3.悪化

* [1]と[3]の設問にある「2004年7～9月の見通し」は、前年同期に当たる2003年7～9月と比べた見通しをお答え下さい。

[2] 貴社の採算(経常利益)の水準(該当する番号に をして下さい。)

	2004年4～6月	2004年7～9月の見通し
採算(経常利益)の水準	1.黒字 2.やや黒字 3.収支トントン 4.やや赤字 5.赤字	1.黒字 2.やや黒字 3.収支トントン 4.やや赤字 5.赤字

[3] 4～6月の業況判断(好転・悪化の状況)(該当する番号に をして下さい。)

	2004年1～3月と比べて	2003年4～6月と比べて	2004年7～9月の見通し
業況判断(1)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
業況判断(2)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

* 業況判断(1)は、貴社の経営状況全般について判断をして下さい。

* 業況判断(2)は、貴社がおかれる業界の状況について判断をして下さい。

[4] 貴社の4～6月の経営上の問題点(深刻なものを下記より上位3つまで選び、番号に をして下さい。)

- 1.大企業の進出による競争の激化
- 2.新規参入者の増加
- 3.同業者相互の価格競争の激化
- 4.官公需要の停滞
- 5.民間需要の停滞
- 6.取引先の減少
- 7.仕入単価の上昇
- 8.人件費の増加
- 9.管理費等間接経費の増加
- 10.金利負担の増加
- 11.事業資金の借入難
- 12.従業員の不足
- 13.熟練技術者の確保難
- 14.下請業者の確保難
- 15.販売先からの値下げ要請
- 16.輸出困難
- 17.輸入品による圧迫
- 18.税負担の増加
- 19.仕入先からの値上げ要請
- 20.その他()

[5] 貴社の7～9月の経営上の力点(下記より上位3つまで選び、番号に○をして下さい。)

- 1.付加価値の増大
- 2.新規受注(顧客)の確保
- 3.人件費削減
- 4.人件費以外の経費節減
- 5.財務体質の強化
- 6.機械化促進
- 7.情報力強化
- 8.人材確保
- 9.社員教育
- 10.新規事業の展開
- 11.得意分野の絞り込み
- 12.研究開発
- 13.機構改革
- 14.その他()

[6] 4～6月に経営上の努力としてどのようなことを試みましたか、また、今後のようにしようと考えていますか、ご自由に記述して下さい。

ここからは今回の特別調査(経営指針書の作成状況(第2回))になります。……………

[7] 貴社に経営指針書がありますか。(該当する番号1つに をして下さい。)

- 1.毎年作成する経営指針書がある。
- 2.毎年更新してはいるが、以前に作成した経営指針書がある。
- 3.経営指針書としては作成していないが、明文化された経営理念を掲げている。
- 4.経営指針書は必要だとは思いますが、作成していない。
- 5.経営指針書とはどのようなものかわからない。

* 1'経営指針書とは、経営理念・経営方針・経営計画の総称です。

次の設問[8]は、上の設問[7]で1または2に をした場合のみお答え下さい。

[8] 貴社の経営指針書はどのように作成していますか。(該当する番号1つに をして下さい。)

- 1.経営者のみで作成している。
- 2.経営者と経営幹部で作成している。
- 3.全社員を巻き込んで作成している。

[9] 貴社では計数管理をされていますか。

- 1.はい
 - 2.いいえ
- * 1'計数とは、財務諸表等から得られる経営に関する数値を指します。

ご協力ありがとうございました。
 お手数ですが、**6月19日(土)**までに同友会事務局までFAXでご返送下さい。
 同友会事務局 FAX番号 089-968-8872